

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

第33回「在京花巻人のつどい」

ご参加への御礼

在京花巻人会会長 瀬川 紘一



29年度の活動報告と平成30年度の活動計画、平成30年度の決算と平成30年度の予算が説明され、それぞれ滞りなく承認頂きました。

去る7月7日(土)、御茶ノ水の東京ガーデンパレスに於いて、第33回となり「在京花巻人のつどい」を開催することが出来ました。これも一重に会員の皆様や関係各位のお蔭と、改めまして心から感謝を申し上げます。又、当日はお忙しい中、多くの来賓そして会員の皆様にご出席頂き誠に有り難うございました。

11時に始まった会は、司会の伊藤佳子アナウンサーの開会宣言でスタート、まずは「平成30年度総会の部」を開始。平成

感じられるご挨拶でした。

続いて、花巻市議会議長小原雅道様からご挨拶があり、上田市長とともに市勢を盛り上げて行きたいとの決意を、簡潔に表明されました。この後は乾杯となり、昨年と同様参議院議員の木戸口英司先生から、国政のいささか停滞気味への憂慮に言及された後、いつも通りの爽やかで元気な乾杯の発声がありました。

11時30分から始まった「交流会の部」では、まず花巻市長上田東一様からご挨拶を頂きました。いよいよ花巻は活性化に向けて、花巻総合病院の移転建設や中心市街地の再生等々、様々な具体的なプロジェクトをスタートさせているとの話がありました。さらに今回上田市長は、特に教育や文化の面でややもすると若手の他都市に後れを取っているような状況を憂い、花巻の輝かしい歴史に相応しい「まちづくり」への決意を語られました。上田市長の並々ならぬ花巻への熱い思いが

今年のアトラクションは、二子流東京鬼剣舞を楽しんで頂きました。鬼剣舞は、私達の子供の頃花巻祭りでは必ず演舞が見られたので懐かしい

だろつと企画しました。参加者には大好評でした。二子流東京鬼剣舞は、東京在住の小川修自庭元が50年前から取り組まれ、現在は地元からも高い評価をもち、首都圏で活躍している団体です。

最後は例年通り「賢治を歌う」コーナー、お馴染みの及川慎先生の指導で種山が原、星めぐりの歌、精神歌の大合唱でお開きとなりました。



上田東一花巻市長



鬼剣舞

巻をより近く感じて頂くという意図で、来賓の花巻商工会議所副会頭の佐藤良介様、花巻農業協同組合副組合長の高橋勉様、花巻観光協会専務理事平塚正隆様にご登壇頂き、それぞれの分野での花巻のホットな話題を披露して頂きました。

今回も会員の皆様、関係各位のご協力により、何とか有意義な会を開催することができました。改めて感謝を申し上げます。今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「第34回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：2019年7月6日(土) 11時～14時
会場：東京ガーデンパレス
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口

平成30年度(第33回) つどい収支決算表

平成30年7月7日 於：東京ガーデンパレス

(単位：円)

	金額	摘要
収入	759,000	会員参加86名(会費9,000円) (内)夫婦参加5組 △15,000円
	288,000	来賓参加32名
	300,000	一般会計より補助
	79,000	寄付金
計	1,426,000	
支出	1,048,678	ホテルへの支払い
	108,000	お土産
	6,627	ウェルカムドリンク
	72,900	つどい案内&ハガキ
	70,000	アトラクション
	50,000	司会&歌関係へのお礼
	30,000	吊り下げ看板製作代
	15,092	ハガキ回収代
	1,694	荷物搬送料、振込手数料
計	1,402,991	
残	23,009	残額は一般会計に戻し入れました

『在京花巻人のつどい』に参加して



花巻市商工観光部長 松田 英基

去る7月7日(土)、東京ガーデンパレスにて開催されました「第33回在京花巻人のつどい」に出席させていただきました、誠にありがとうございました。

当日は、在京花巻人会の皆様をはじめ、在京大迫人会、在京石鳥谷町人会、在京東和町友会の役員の皆様など約120名のご出席のもと盛大に開催され、多くの方々と懇親を深めることができました。皆様からは、昔の花巻の様子やご自分の小さい頃の思い出、現在のご活躍の様子などをお伺いすることができましたほか、ふるさと花巻の発展に向けて期待と激励を頂戴するなど、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。開催にご尽力いただきました瀨川会長はじめ役員の皆様方

にあらためて感謝申し上げます。

また、在京花巻人会におかれましては、毎月の理事会開催をはじめ、会報の発行やメルマガ「熊タイムズ」の配信、首都圏での市開催事業への応援、さらに旧1市3町の在京人会が連携しての「ふるさと復興ツアー」の実施や来年は「花巻まつりツアー2019」を企画されるなど、皆様と連携し本市の応援団として積極的にご支援いただいております。厚く御礼申し上げます。

花巻の中心市街地は、立地適正化計画に基づくエセナ跡地への広場整備や総合花巻病院移転整備をはじめ、災害公営住宅や子育て世帯向け地域優良賃貸住宅の整備等を進めておりますほか、豊沢橋の架け替え、リノベーションによる商店街への新規出店など、徐々にその姿を変えつつあります。今後も元気なまち花巻市の復活に向けて各種施策を展開してまいりますので、引き続きふるさと花巻市へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

い申し上げます。

末筆ではございますが、在京花巻人会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。お礼のご挨拶といたします。



北山 郁子

昨年に続き二度目の参加です。七夕になぞらえて一年に一度、今年はどうな邂逅が待っているのか、楽しみにしております。会場は丸い円卓が花のように並び、テーブルごとのメンバーや座席の組み合わせは、今年も開催スタッフの方々の繊細な心遣いを感じるものでした。私の席の右側は東十二丁目、左側は鞍掛、共に矢沢中学出身の方でした。花巻駅周辺で育った私なのに、それを聞いただけで、御田屋町から里川口を抜けて朝日橋を渡り、右方向に野菜畑や果樹が広がる東十二丁目、そして高木、安野を通って道なりに進んで東和町方面に向かえば、鞍掛の台地が左手に見え

てきました。一挙に打ち解けて、親しくお話をすることが出来ました。話題が盛り上がるような Engels を振りかけられていたのではないかと思います。

不思議なものです。もう何十年も前に花巻を離れ、そこで暮らした年月より遥かにながい歳月を首都圏で暮らした者同士、共通の思い出のない者同士、それが何の躊躇もなく同じ感覚で話せる楽しさはどこから来るのでしょうか。今回花巻人と出会うとすぐに懐かしく、心が寛げられることを実感して、「故郷」の持つ不思議な力を教えられました。もしかしたら、山、川、空、月、林、畑、樹、草、花、石ころ、生物など、同じものを見て育ち、風の匂い、雨の音、雪の冷たさ、言葉のトーン、食べ物の味など、同じ体感をしたところが、引力を生み出すのかもしれない。いわばアイデンティティは「花巻」にあり、ということだと思います。

「在京花巻人会」とは、現在、広い都会で散らばって生活している中で、ふと根無し草のような感覚を持つ者同士の集まりとも言えます。グローバル化した地球環境の現代、小さい地域の大事なアイデンティティをどのように活かしていくか、これからは意識して暮らしていこうと思っております。ありがとうございます。



土屋 恭子

(湯本中35年卒業)

以前より歩こう会には参加していましたが今回初めて総会に参加させていただきました。花巻人会の瀨川会長よりの会の現状と事業計画、地元花巻の情報や県内への繋がり、また上田花巻市長より郷土の名士宮澤賢治氏や新渡戸稲造氏のご両親が花巻にお住まいだったお話はとても興味深く、私の母校である花巻南高校の募集クラス削減の件でご苦労なさっている由など、4月に花巻南高校東京支部同窓会に出席し瓜生同窓会会長や今年新任なされた校長

先生の県への陳情のお話を聞きしていたので頭が下がりました。

アトラクションは小学生を始め89才の女性からなる総勢26名の「二子流東京鬼剣舞」で、踊りやお囃子に女性の方々が活躍しているのにも驚きでしたが、小学生の男の子のなんと凛々しかったことか！日頃から大好きだった昔の響きに目頭が熱くなりました。賢治を歌うでは、歌唱指導の兄弟の方の歌声の素晴らしかったこと！精神歌を口ずさんだ時、幼少期花巻温泉で育ち、ガールスカウトで奉仕活動をしていた頃が懐かしく思い出されました。帰宅してから郷土のパンフレットに目を通しながら役員さん達がどんなにこの日の準備に手を尽くされたことかと思ひ、又、楽しい思い出と郷土の名産品、名所、やっぱり花巻良いところ!!鼻高々です。今後花巻市のためご尽力いただいた方々への感謝の気持ちをお忘れず、ふるさと花巻の応援団でありたいと思います。

平成30年 在京花巻人のつどい



会員の活動報告コーナー

第44回岩手県人連合会 懇親会に参加して

副会長 高橋 良光



梅雨入り前なのに暑い6月3日(日)、日暮里のホテルラングウッドで県人連合会の総会と懇親会が開催されました。総会は11時に始まり、例年通り物故会員並びに東北大地震被災者に黙祷。鈴木文彦連合会長の挨拶・会報報告と順々に進行。来賓挨拶では達増知事が今の岩手県の話が話され、先ずはアメリカで活躍の大谷選手の話で盛り上がり、6月2〜3日は復興

を目的とした東北6県を代表する祭りが熱く繰り広げられている「東北六魂祭」の話、来年9月に釜石市のグラウンドで開催されるラグビーワールドカップでは世界最高レベルの試合を見ることが出来ること、また県中央部の北上市の工業団地への大企業進出が決まり関連企業も含めて雇用が期待される等々、熱く話されました。

アトラクションは大槌町出身の「みち乃く兄弟」の歌謡ショーと「大江戸さんさ会」による盛岡さんさ踊りの披露があり、楽しいアトラクションでした。今年の参加人数は昨年同様350名。花巻市からは市長代理で地域づくり課の中村光一課長が出席されていました。中村課長は以前東京事務所長として勤務されており、久しぶりの再会でしたが7月7日の花巻人の集いにも参加予定とのこと、お会いする時にはするものです。



14時過ぎに閉会となり各テーブルでは来年も元気で出席しようという会話が飛び交っていました。

た。
ふるさと言葉で気軽に会話の出来る集いですので皆さんも参加してみませんか!!

近隣ふるさと会役員 交流会に参加して



常任幹事 山口 妙子

六月九日(土)ライブレストラン青山に於いて近隣八団体(大迫、石鳥谷、東和、花巻、北上、紫波、金ヶ崎、矢巾)の役員交流会が行われ、花巻人会からの畠山副会長他五名を含む約四十名が参加しました。会場の最寄り駅から今回の担当幹事矢巾会の方が所要所に立って道案内をしてくださりスムーズに行くことができました。会高橋大新矢巾会会長のご挨拶から始まり乾杯の発声の後は各々が思い思いに交流を深めました。会場の雰囲気や和やかに

歌自慢の人が次々と舞台上に上がり気持ち良さそうに歌を披露しました。頂いた矢巾町資料で来年には岩手医科大学附属病院が矢巾に移転すると知り、更に住み易い街になるだろうと思いました。

いわて花巻物産展 in 銀河プラザ

理事 板垣 雅子

7月8日(日)〜12日(木)まで銀河プラザで開催された「いわて花巻物産展」に11日の午後仲間3人で顔を出してみました。

入口正面に花巻市ふるさと納税紹介・申し込みコーナーがあり返礼品大人気のりんごジュースと飲むヨーグルトの試飲テーブルが、左側のイベ

ントコーナーには漬物の丸一食品工業、つゆの佐々長醸造、それに藍染工房の染屋たきつらが出展。ただ、折からの猛暑炎暑の真つ最中、「熱中症に気を付けて」とテレビやラジオで盛んに繰り返している時で余程の用事でもないと出歩く人も少なく、折角の物産展なのに銀河プラザ自身の買い物客が少なかつたのが残念でした。

私は丸一さんで夏らしくピリ辛の漬物を、佐々長さんではお味噌を買いましたが、一緒に行った友達はデザインと言いつつ質と言いつつ、藍染工房のとても素敵なスカーフを見つけたのですが、安くしてあるとは言え「一万を超すとねえ、ちよつと買つ」と言いつつ「いかにない」と諦めて帰って来た次第。こんな時には花巻特別会員のカードでも有つて割り引いて頂けると嬉しいのですけど……。

「キラキラはなまき 銀河鉄道ナイター」 観戦記

観戦記

花巻市は、7月31日(火) 埼玉西武ライオンズの協力の下、ホーム球場のメットライフドームで公式戦「キラキラはな

まき銀河鉄道ナイター」埼玉西武ライオンズ対福岡ソフトバンクホークスを開催。花巻東校出身の菊池雄星投手や富士大学出身の多和田投手、山川内野手、外崎内野手と4名の花巻ゆかりの選手が所属するライオンズを応援に花巻から多数の親子がバスツアーで駆けつけました。

試合は球場が花巻一色に染まるなか、応援するライオンズが7対4で快勝しいイベントに花を添えました。始球式は、バスツアーに参加した小学生新田悠太君、試合中にはスコアボードの画面に花巻市のPR動画も写し出されました。

ライオンズ先発は富士大出身多和田真三郎投手、見事な完投で11勝目、攻撃面では富士大出身の山川選手がホームランを打つなどホークスを圧倒。外崎選手の活躍もあり、花巻ゆかりの3選手活躍で「はなまき銀河鉄道ナイター」にふさわしい試合となりました。

ヒーロー賞には多和田投手と浅村内野手が選ばれ、贈呈式ではバスツアー参加の小学生千田君、大道君、駿河君が賞を贈呈しました。

《はなまき あれこれ》

こんびりベーカリー чайい

JAいわて花巻の「母ちゃんハウスだあすこ」の隣にあるパン屋さんをご存知でしょうか。

JAが福祉に力を入れていた事や、小麦の消費・普及拡大を進めようとしていた事がきっかけで、社会福祉法人光林会に打診して平成14年に開設されたパン屋です。現在注目されている「農福連携」が既に15年前から行われていたということです。

店名は、おやつの方言の「こんびり(こびり)」とインドのお茶の「 чайい」から。お茶をしながら食べたいと思うようなパンをつくりたいとの思いが込

められています。従業員はスタッフ8名と就労継続支援事業の利用者8名で、毎日約30種類のパンを焼いています。最近JAとの新商品の共同開発にも努めており好評を博しています。帰郷の折、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。



(ぼらーの花巻7月号より)

花巻を元気にする「リノベーションまちづくり」の手法

花巻市は、市街地活性化を進めるため平成28年に「花巻市立地適正化計画」を策定、一方で今年3月には国交省と内閣が連携して推進する「地方再生コンパクトシティモデル都市」の全国32都市の一つに選ばれ、国の支援を受けながら市街地活性化に取り組んでいます。

この実現に向けた手法の一つが「リノベーションまちづくり」で、まちなかの使われていない建物や空き地の新しい使い方をみんなで考え、まちを切り拓くことです。これにより新たなビジネスを生み、雇用を増やし経済的な発展を目指すとともに、地域

コミュニティの再生やエリア価値の向上を目指します。花巻市では、昨年からの市民の皆さんにリノベーションまちづくりの手法を学んでもらう場として「リノベーションスクール」を開き、市民の「やる気」を支援しています。

公共空間の有効活用もテーマの一つで、花巻市はエセナビル跡地を多目的に利用できる広場に整備する計画です。大堰川プロムナードを含む上町エリアの賑わいを創出する起点として、今後官民連携体制を構築しながら、管理運営の検討も行う予定です。

田瀬湖ボート日本代表の合宿地に決定

田瀬湖ボートコースは、これまでも様々な大会や有名チームの合宿などに使われ、選手からの評判が高いボートコースとして知られています。在京花巻人のつどいでも上田市長が挨拶でお話されていましたが、この度このボートコースがボート日本代表の合宿地に決定し、6/14～29、8/1～12に強化合宿が行われるとのこと。

6月の合宿ではスイスで行われるワールドカップに出場する選手とポーランドで行われる世界選手権23歳以下に出場する選手が参加。8月の合宿には、

インドネシアで行われるアジア選手権、ブルガリアで行われる世界選手権に出場する選手が参加すること。

「風による波が立たず良好な環境」と評価される田瀬湖ボートコースは、2020年東京オリンピックの日本代表チームの事前合宿地にも決まっています。



(広報はなまき6/1号より)

夏の甲子園100回大会に花巻東出場!!

花巻東は県代表で3年ぶり9回目の出場を果たしました。今年もベンチ入りした選手は全員県内出身。春の選抜大会で8強入りをした花巻東は夏の県代表を目指し堅守に磨きをかけて猛練習、また投手は6名を要し県大会に臨みました。

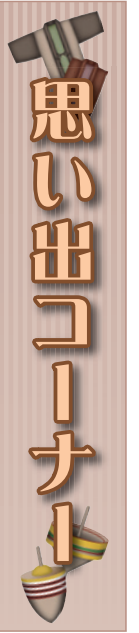
県大会では6戦中5試合が相手に先行されましたが粘りで勝ち抜いた大会でした。特に準々決勝では福岡高校に7回まで3対0で負けていた試合を8回に先頭打者からの4連打で4点取って逆転。決勝戦は県内2強の対をなす豪打の盛岡大付属と対戦、8回まで3対2だった試合を9回に2点取り逆転し、

県代表として全国大会に臨みました。

初戦は5日目の第2試合で山口県代表の下関国際と対戦、投手は県大会から先発していた伊藤投手。投手戦となりお互いにテンポ良いピッチングでスピーディーな試合。8回に1点リードし9回を迎えたが同点され延長戦となり、10回に2点取られ初戦敗退となりました。

以前の花巻東みたいに菊池雄星、大谷翔平の様な突出した選手はいなくても、県代表で甲子園に出場する花巻東が“おらが街”にあることは自慢です。

(高橋良光)



昔の花巻商人 (後篇)



梅津 興三

3. 幕末の花巻商人

今から15年ぐらいい前に、仕事で秋田大曲の地元スーパリーの社長さんにお会いした時です。その社長さんは、私が花巻出身とわかった途端、「昔、江戸時代の末から明治初めまで、花巻商人がこの地域まで商売を拡げていた、と爺さんから聞いたことがありますよ」と。

鉄道・自動車の無い時代ですから、中山街道を越えて、沢内を経て、大曲に花巻商人は来たんだ、と思いました。昨年大曲花火を見学した際、隣の美郷地域で現地の案内パンフレットに「大曲花巻道路」という名が明

示されてました。

また3年前前に花巻博物館に行った時に、全く偶然にも「幕末のある花巻商人(山形屋喜八)の日記を教材とした古文書解説講座」を聴講する機会がありました。その日誌の中から幾つか拾ってみると、

- 江戸、石巻等からの頻繁な情報入手、ペリー来航、井伊大老の詳細な襲撃内容、地震・コレラ発生
- 米・塩の価格変動、小名浜沖での船遭難で江戸からの仕入れ品の損失発生
- 江戸に出立した際、大太鼓を購入し観音祭り(今の花巻まつり)に奉納
- 横浜・長崎・函館の3か所での開港、禁輸品・交易可能品の記述、ロシア人5人が帰国途中花巻で宿泊
- 町内の度々の火災、被

災者への見舞金

● 息子を町の塾(豊沢町の八重樫塾)に入れ、10年後には江戸に連れて行き見学させた

● 面白いのは、吹張町で仇討(安政7、1866)

● 商売関連も含め、進取の気象があつたと感ぜられる。

いずれにしても、花巻は南部藩の一番南の位置にあり、盛岡商人より少なくても3〜5時間は早く情報を掴むことが出来る地理的優位性があつた。商人にとっては、いち早い情報が大事なのも今も変わっていない。当時の主たる商いは米穀・海産物・糸綿小間物・呉服・染物・薬種・塩・味噌醤油・酒など。この幕末の頃から、盛岡では「花巻商人とべこ(牛)の糞には油断するな、うっかりすると足をさらわれる」と言われていたようです。盛岡と城下の御用商人と比較すると、情報取得や行動力には大きな違いがあつたと思われま

4. 明治・大正時代

明治に入り、廃藩置県でほんの一時期、5ヶ月間ですが花巻県というのが存在し、その役所が花巻城の中に設置されましたが、結局、南部藩の南の一大中心地から、岩手県の中の1つの郡、稗貫郡の郡役所所在地となり、一ノ関には県の支庁が出来て一ノ関よりは下に位置づけられ、且つ花巻城の取り壊しで町の雰囲気が消沈し、城下町でない大迫や黒澤尻と比較してその気分的落差が大きかつたと聞いております。

しかしながら、花巻商人の底力なんでしょう。か、明治6年の小学校設立(最初は妙円寺と光徳寺本堂)への支援。明治15年には電信(電報)局、これは電話・鉄道が未だ無く、情報を集めるには最も大事、明治新政府の方針である10里(約39km)制限、盛岡と一関に出来たので盛岡から10里の中に入るんです。そこを花巻商人の有志が当局と強硬に交渉して、私費を投じて実現させました。

東北本線は国の政策で明治22年に上野―盛岡開通。その際花巻商人の有力者による鉄道債の引き受け、駅・線路用土地の提供。問題はそれ以外の社会インフラ基盤の建設です。花巻商人が皆で協力し合い、自らの出資、及び県内・県外の投資家を募つて進めました。

● 明治15年の花巻電報局に続いて

● 花巻銀行―明治31年、光徳寺で創立総会、日詰・八重畑の有力資産家も出資

● 若手軽便鉄道―明治44年、大正4年に仙人峠まで

● 花巻電気会社―明治45年

● 花巻電鉄―大正4年松原、大正7年志戸平、大正14年西鉛及び台温泉

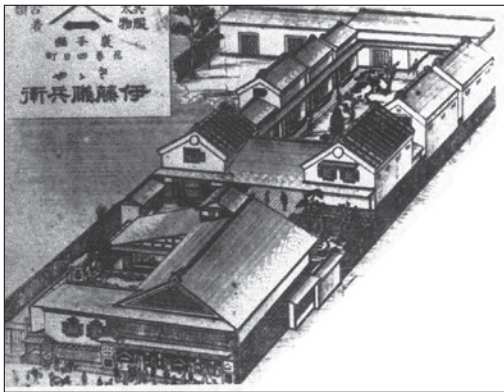
● 花巻病院―大正12年

● その後の一大リゾート 花巻温泉(旅館、動物園、遊園地、ゴルフ場、テニス等々)

これらのインフラ整備は、ある段階から盛岡の資産家金田一家とか若手

県知事も一部支援しましたが、当初はすべて花巻商人のアイデア・資産力によるものです。当時の東北の一地方都市として、地元商人の力でこれほどのインフラ整備をおこなつた地域は珍しかったらしく、10年ぐらいい前の東北大学大学院のレポート(近代化過程における地方都市商業者の関わり、深澤あかね著)では、次のような文章「花巻商人としてこのような近代化事業に固執せしめたのは、江戸時代に確立した商人としての基盤の所以でもあり、また広い視野で、自分の為にもこの町を他の町よりも盛り立てなくては、という思いと、城下町として栄えた花巻商人のプライドの結晶でもあつた」と解説している。

明治27年発行の若手県内の高額所得者番付表を見ると花巻地域(大迫・八重畑・土沢・湯口などを含む)の商人・地主の人々が上位ランクで盛岡地域を圧倒しており



花巻の豪商笹屋邸宅

ます。また、この時期の岩手県知事の笠井信一氏（勅撰知事、明治40年（大正3年）をして「岩手県内の経済的中心は花巻である」と言わしめたぐらい（花巻町政史稿、八木英三著）、花巻商人は県内での経済活動のリーダー格だったんでしょう。明治23年からの多額納税者による貴族院議員の数でも同様です。

その中で最大だったのは、朝日橋東側の高木に設置された数百人規模の三益社製糸工場でした（出資者は花巻・大迫商人）。

5. もしも・たらればの話し

ところでこの時期に返す返す残念だったのは、歴史やゴルフでの「たらればの話し」になります。大正年間に入ってから、（国の方針で）花巻から横手・秋田に結ぶ鉄道計画が進められ、これにより釜石に向かつて鉄道敷設が進んでいたのに、花巻が当然ながら起点、それで笹屋・太田などの路線予定地への杭打ちが

始まったのですが、それらの杭が翌朝には地元の人・地主さん達によつて撤去されるという事態が続き、結局、黒沢尻が手を挙げて、横黒線今の北上線が出来たことです。

その当時、日本全体の景気低迷で環境は良くなかったとはいえ、花巻商人・町役場はもつともつと地元の説得に汗をかくべきだったのです。これが実現していれば、現在の福島県の郡山のように、岩手における東西南北の本当の要になり、近年での新幹線の駅問題でも全く問題なかったし、流通・工場立地も今以上の発展につながったといふことです。

ここで少し横道に入りますが、皆様ご存知の通り、大迫・岩谷堂もそうですが、宮城県の古川は明治の始めに鉄道は要らない、ということ、小

繁盛はご存知の通り。それから麻布十番の商人達は苦しみ、40〜50年を経て、近年になってやっと地下鉄南北線・大江戸線の駅を誘致し、今は麻布十番の賑やかさは凄いです。この種のことで復活出来た例、依然として何も手がない例など全国に沢山の事例があります。

6. おわりに(昭和以降)

① 江戸時代から組み込まれた南部藩南端としての地政学上の緊張感と機敏さ、② 中央への地理的優位性、③ 稗貫・和賀・紫波の豊かな穀倉地帯を背に、④ さらに先述した各種インフラ整備などと相まって、大正・昭和にかけて順次、卸売機能を

もつた花巻商人が各分野で輩出したことは特筆すべきことです。

太平洋戦争時に数百におよぶ業種毎の統制組合が設置された時、それらの組合長の数が盛岡商人より花巻商人の方が多く、毎日のように花巻駅から盛岡に通う人々で汽車が賑わったと、今や語り草になっています。

また戦時中には、老舗の大手菓子種の箱庄が陸軍省から乾燥粉味噌の大量注文を受け（田舎出身の兵隊にとつては味噌汁が嗜好品、高温多湿の南方では乾燥していることが必須）、また東京蒲田から主力工場を移した新興製作所（新堀出身の谷村貞治社長）が海軍省から電気通信機（テレビリントー）の独占注文を受け、中島飛行機の小規模部品（組立け）工場が作られるなど、当時の花巻地域の経済活性化には大きく貢献しました。ただ残念ながらそれらが米軍の主要な攻撃対象となつたことです（昭和20年8月10日、終戦5日前の花巻空襲）。

戦災を免れた新興製作所は戦後になつても米軍および日本企業からの通信機の発注が増え、朝鮮特需が重なり、昭和30年頃の社長の個人所得は岩手のみならず東北一となり、従業員数はピーク時（昭和40年頃）に約3000人、給与水準も高く、また花巻地域の下請け企業も種々潤い、当時

花巻はまさしく新興製作所の企業城下町となりました。

しかしながら、その後の社長交代、技術の進展・電子化の波に乗れなかつたことは本当に悔やまれます。また、新興の流れを汲む東北コカ・コーラの盛岡地域への移転問題、市役所が動かなくなつたのか真相はよく分かりませんが、明治時代の花巻商人の志・結束力が強く残っていたらなあという話でした。

しかし、近年ではリコー、富士フィルムを始めとする各種大手誘致企業の展開と共に、地元花巻商人としては、除雪機・自動車部品・農機具・建設及び資材・冷暖房機設置メンテ・ワイン・ぶどう園・味噌・酒・漬物・白金豚・家守舎……等の勢いのある会社が積極的に活躍しており、心強い限りです。

いずれにしても江戸時代から昭和の中頃までの花巻商人の意気込みと実績を忘れてはならないと思つ。

親睦
交流

第23回 歩こう会

新宿御苑から千駄ヶ谷をめぐる明治神宮へ

理事 松村 扶恵子

5月26日(土)、参加者44名、連日の真夏日と違い5月最後の週末のこの日は薄曇りで風もほどほどに有り、今回のコース「新宿御苑から千駄ヶ谷をめぐる明治神宮へ」はまさに森林浴に最適な時でした。

10時に新宿駅新南口から出発、まず新宿御苑へ。新宿門で二つのグループに別れ二人のガイドさんが付いてそれぞれに出発、庭園や樹木についての説明を聞きながら苑内を散策、バラも見頃は過ぎていましたが、まだまだ綺麗に咲いて私達の目を楽しませてくれました。

御苑の千駄ヶ谷門を出て千駄ヶ谷駅を通ると、もう目の前には新国立競技場建設現場。躯体工事がほぼ完成していましたが、その大きさには皆ビックリ! 全員写真を撮って解散し皆さんそれぞれ昼食に。

昼食後、将棋会館、隣接する鳩森八幡神社から国立能楽堂へ。将棋会館のショップでは藤井7段の人気もあって彼のグッズは売り切れ! 残念。国立能楽堂では展示室で能の歴史展を見学。

最後は、北参道から明治神宮にお参りしたのち宝物殿の前の大芝生で休憩。その後ゴールの代々木駅に向かい午後4時に到着、解散となりました。二次会は、代々木駅前の土間土間で開催、25名ほどが参加し冷たい

ビールでのどを潤しました。

今回は全体的にフラットな道のりでしたが、およそ15,000歩ほども歩きましたので、皆様お疲れになったでしょう。また今回は集合場所が分かり難く戸惑われた方が多かったようです。これからの課題にしたいと思います。しかしながら今回も無事楽しく終了いたしました。参加された皆様 本当にお疲れ様でした。

次回歩こう会は12月1日(土) 草加を予定しています。



JA湘南でてこいまつり

花巻物産展

平成30年
11月10日(土) 9:30~15:15
11月11日(日) 9:00~15:00

会場 平塚市総合公園

- お米・漬物・ベーコン・リンゴなど・特産品が盛り沢山
- 11日は現地にて「わんこそば大会」平塚場所開催予定です

主催/一般社団法人花巻観光協会 TEL 0198-29-4522

30年度年会費納入のお願いと納入状況

在京花巻人会の運営に多くのご協力を賜りありがとうございます。花巻人会は会員の皆様からお振込みいただいた会費で運営させていただいております。

30年度の年会費3,000円には6月1日付・第54号同封の振込取扱票(手数料不要)で最寄りの郵便局より下記口座にお振込みいただくようお願い申し上げます。

□座名義 在京花巻人会

□座記号番号 00240-6-111794

30年度の年会費納入は、8月31日現在225名675,000円となっております。

皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光 板垣雅子

第8回復興支援ツアーに参加して

会長 瀬川 紘一

在京大迫人会が幹事を務める今回のバスツアーは、9月15日雨の中を出発。しかし最初の訪問場所の「北上みちのく民俗村」に着く頃には晴れ、見事な江戸時代からの古民家を見学、この夜は志戸平温泉泊。宴会には上田花巻市長、小原市議会議長が参加され大歓迎を受けました。

16日は見事な晴天、まずは高村光太郎記念館を訪問後、今回のツアーの白眉「おはさまワイン祭」へ。噂通りの大変な賑わいの中、10時からのセレモニーに参加、その後一行はワイン漬けの至福の時を堪能。午後は大迫の名刹「桂林寺」へ、さらに村田林蔵画伯の絵を鑑賞した後気仙沼へ。夕刻ホテルに到着、宴会の後のカラオケ二次会で大いに盛り上がりました。

17日は、震災語り部から気仙沼の被災と復興の状況を伺い、その後津波体験館へ。津波体験の後昼食を取り、帰路につきました。総勢37名の参加者は、幹事の素晴らしいおもてなしを受けて旅を心から満喫した様子でした。

復興支援ツアーは今年で一応終了、来年は在京花巻人会が幹事となり「花巻祭りツアー」を実施します、ご期待下さい。